

II 今後の取組み

II-3 施設整備・機能向上の計画

- 当市場は2026年度に開場後32年を迎え、建物・設備の老朽化等に対する早期の対応が求められており、前頁の市場機能拡大に資する交流施設跡の活用方策と併せて整備を行う。
- 整備については、劣化の現状等に基づき優先順位を決めるとともに、花きの流通拠点としての機能を最大限発揮できるよう施設整備を計画的に推進していく。

【計画改定における主な変更点】

○「設備更新」部分

- ・2024年度～2025年度に計画されていた基幹コンピュータシステムを、当社が整備しないこととなったため、2年間合計で「設備更新」の金額が950,000千円減少した。一方、交流施設跡の3階部分を卸売市場の一部として活用する方針を固めたことにより新たな改修費用が約245,000千円増加し、2024年度～2028年度の計画全体では約700,000千円の減少となる。

○「修繕」部分

- ・交流施設跡の改修に関する費用負担等を踏まえ、修繕の必要性や優先順位を精査したことにより、2024～2028年度の計画全体では約139,000千円減少となる。

【修繕・更新に必要な費用】

(単位:千円)

年度	築年数	設備更新	修繕	計	主な工事内容
2024(R6)年度 実績	30年	37,998	10,599	48,597	・防火シャッター危害防止装置設置 ・監視カメラシステム更新 ・中水加圧給水ユニット更新
2025(R7)年度 見込み	31年	180,360	6,600	186,960	・3階交流施設跡フラット化(1期) ・中央監視装置更新 ・駐車場防水工事
2026(R8)年度 ～ 2028(R10)年度	32年 ～ 34年	511,500	24,000	535,500	・垂直搬送機設置 ・3階交流施設跡フラット化(2期) ・3階交流施設跡区画・空調整備 ・航空灯更新 ・機械設備(電気・衛生)の更新
合計		729,858	41,199	771,057	

II-5 収支の見込み

【計画改定における主な変更点】

- ・計画策定時に更新を予定していた基幹コンピュータシステムについて、当社が整備しないこととなったため、収入（システム賃貸料）と支出（減価償却費）の両面で当該変更を反映。

「売上高」の「その他」：2024 (R6) 年度 ▲約100,000千円、2025 (R7) 年度以降 ▲約160,000千円

「売上高原価」の「減価償却費等」：2024 (R6) 年度 ▲約100,000千円、2025 (R7) 年度以降 ▲約160,000千円

（なお、上記同様に当社が既に調達して場内業者に賃貸してきた他のシステムについても、本計画期間内に費用回収を終える予定のものは今回の計画改定において反映した。）

- ・農水省の交付金事業を活用して交流施設跡の3階部分を改修する予定のため、当該改修に対して交付を見込んでいる国交付金を新たに計上。

「特別利益」：2026 (R8) 年度 73,260千円、2027 (R9) 年度 35,200千円、2028 (R10) 年度 66,000千円

- ・天候不順や猛暑による花きの品質低下、物価高による買い控え等のため、2025年度は特に切花の単価・取扱量が減少し、「売上高使用料」が2024年度に比べて約5,000万円減少する見込み。天候や景気動向に大きく左右される花きの単価・取扱量の今後の増減見込みを現時点で正確に予測することは困難であることから、2026年度以降の「売上高使用料」については2025年度の決算見込み額をもとに再設定。

「売上高使用料」：2025 (R7) 年度以降 ▲約39,000千円

- ・上記の変更を反映した結果、当期純利益は2025年度を除き黒字となる見込みである一方、2028年度までの間、経常利益は2千数百万円程度の赤字が見込まれる。

花きの国内流通量が減少し、物流2024年問題で輸送能力低下が懸念される中、卸売市場間の競争に打ち勝つため、2028年度までを、国の交付金を活用し当期純利益ベースでは黒字を確保しつつ、将来への投資を行う期間と位置づける。交流施設跡3階の改修を2028年度に終える予定としており、当該整備による市場機能向上や他市場との連携拡大、使用料のあり方の検討や交流施設跡4・5階の活用（賃貸）等の取組みを進め、2029年度以降の経常利益黒字化を目指す。